

# いちご一会とちぎ国体 入賞者コメント

## 質問内容

- Q1. 順位が決まった瞬間のお気持ちをお聞かせください。
- Q2. 日々の練習や強化を進める段階で、ご苦労されたことなどがあればお願いします。
- Q3. 今回の成績を獲得することができた要因や勝利への秘策などがあれば教えてください。
- Q4. 今後の目標や今後の競技生活の展望があれば教えてください。
- Q5. 岩手県の皆さんに伝えたいことはありませんか。
- Q6. ご自由に何でもお書きください。



### ボート競技(成年男子シングルスカル) 菅原 陸翔 選手

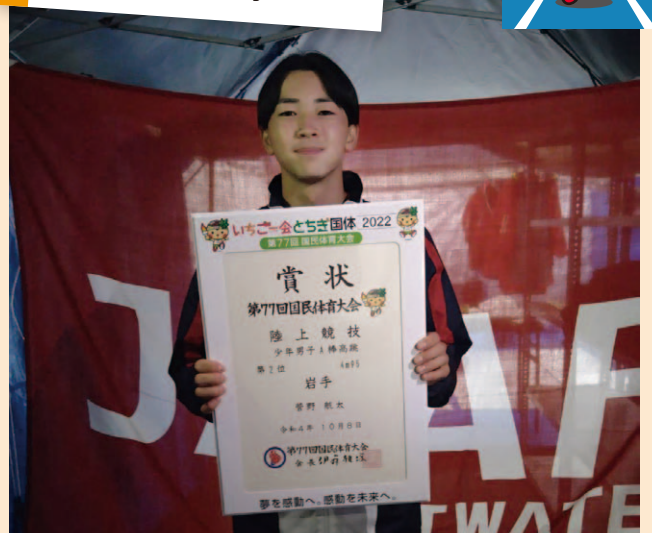


成年男子シングルスカルで優勝した菅原陸翔(日大)=4日、栃木県栃木市・谷中湖特設コース(岩手日報2022年10月5日付)

- A1. 事前に考えていた展開(プラン)通りのレースができて、ゴールした瞬間「やってやったぞ!」という気持ちでした。決勝は実績のある選手ばかりでしたので、「この中で一番になれた!」と本当に嬉しかったです。
- A2. ボート競技の場合練習が単調で厳しいものがほとんどなのですが、それらの苦しい練習を楽しみと考えられるようになるまで時間がかかりました。またトレーニング効果がすぐに現れる競技ではないので、毎日の練習に対して受け身ではなく自身がどうしたい、どうになりたいという目的意識を持ち続けることが大変でした。
- A3. 予選、準決勝ではボート競技の中で最もタイムが出せると言われているオープンペース(前半500mと後半500mのタイム差がない)展開で勝ち進んだのですが、決勝では戦法を一変して前半500mを全力に近いスピードで漕いでリードを奪ったまま逃げきる展開を選択しました。この選択が上手く噛み合い、500m付近で2位と5秒のアドバンテージを奪って後半を落ち着いて漕げたからだと考えています。簡単に言えば奇襲作戦のようなものになります。
- A4. 2024パリオリンピック出場、2028ロサンゼルス、2032ブリスベンオリンピックでメダル獲得を最終目標に競技に取り組んでいます。ボート競技はオリンピックにおいて第2回1900年パリ大会から実施されていますが、日本でメダルを獲得した選手は未だいません。私はその1人目になれるよう努力していきます。
- A5. 生まれ育った県に結果という形で恩返しする事ができればアスリート冥利に尽きます。良い結果が報告できるように精一杯努力しますのでどうか応援宜しくお願い致します!
- A6. 高校は県外へ進学したため岩手県の選手として全国級のレースに参加するのは初めてでした。国内だけではなく国外で戦える選手を目指して頑張ります!

- A1. 接戦の中での試技でした。5m00を3回失敗したあと全選手の試技が終わり、順位が確定したときはホッとした気持ちが強かったです。
- A2. インターハイと東北総体のあと、進路活動が本格化し練習と並行しなければならなくなりました。進路活動をやりながら練習時間を確保することにも苦労しました。
- A3. 試合当日のコンディションはあまり良くなく、最初の高さ(4m60)を2回失敗してしまいました。3回目の跳躍の前に落ち着いて成功のイメージを作り、「絶対跳ぶ」という強い気持ちを持って跳べたことで、その後の試技もうまくいったのだと思います。
- A4. 大学へ進学し、競技を続けます。まずは、岩手県記録(5m21)の更新をしたいと考えています。そして、大学で全国優勝をし、ゆくゆくはオリンピック出場を目指していきます。
- A5. みなさまの応援のおかげで国体2位となることができました。ありがとうございます。今後も岩手県の選手として活躍できるように日々の練習に励みますので、引き続き応援いただければと思います。
- A6. 棒高跳はポールの反発を利用して自分の身長以上の高さまで跳ぶことのできる競技です。挑戦している高さを越えたときの爽快感はとても気持ちのいいものです。ぜひ、中高生の方で棒高跳に興味がある方がいたら、積極的に挑戦してもらいたいと思います。

### 陸上競技(少年男子A棒高跳) 菅野 航太 選手



少年男子A棒高跳びで2位に輝いた菅野航太(黒沢尻工高)=宇都宮市・カンセキスタジアムとちぎ

## ボクシング競技(成年男子ミドル級) 鳥谷部 魁 選手



成年男子ミドル級決勝2回、右ストレートで攻め込む鳥谷部魁(左、拓大)=栃木県日光市・大沢体育館(岩手日報2022年10月10日付)



- A1. 順位が決まった瞬間は試合に勝ててほっとしました。そのあと優勝することができた喜びとやっとなオリンピックに向けてのスタートラインに立つことができたと感じました。
- A2. 練習でのけがや体調を崩すことが多くあり、ケアの面や体調管理が大変でしたが、県のトレーナーの方にアドバイスをいただきながら、大会ではベストコンディションで出場することができました。
- A3. 岩手県の監督、コーチ、トレーナーの指導、サポート、応援してくれた皆さんのおかげで、自分が持っている力をすべて出しかけたことが優勝につながったのではないかと思います。
- A4. パリオリンピックで金メダルをとることで、そして日本の皆さんにボクシングの魅力を伝えていきたいです。
- A5. いつも応援してくださっている岩手県民の皆さん、ありがとうございます。今後もボクシングを通して明るいニュースを届けられるように頑張っていきたいと思います。これからも応援よろしくおねがいします。
- A6. これから岩手県のスポーツ振興に貢献しているよう精進していきます。

A1. 信じられないという思いが一番でした。練習も思ったようにできていなかったのので、入賞できたら嬉しいと思っていました。(小川)

A2. やはり練習時間の確保は苦労しました。普段は仕事をしているため、平日に練習することは難しく、土日で調整して練習していましたが、学生の頃には比べるとかなり練習量は落ちたので、その部分をどうカバーするかで悩みました。(千葉)

A3. 今回の勝因は対戦相手と岩手県の選手の当て方が上手くいったことだと思います。岩手県の選手は3人中、現役の学生が1人(専門種目がフルールではなく、サーブル)とほか2人は仕事でなかなか練習時間が確保出来ていなかったため、いかに各々の得意な技などが通用する相手と対戦するかというところに重点を置き、他のチームの順番をよく見た上で、勝つ確率が高い相手に当たるよう、順番を考えていました。(千葉)

A4. 今後は指導者として子ども達にフェンシングの楽しさを教えていけたらいいと思います。(小川)

来年度も選手として国体に出場したいと思っています。仕事をしながら練習時間を確保することは難しいところではありますが、今年に引き続き良い結果が出せるように精進して参ります。(千葉)

今年で大学最後を為、悔いの残らないフェンシングをします。また、来年からは仕事等で最初は忙しくフェンシングをするのは難しいとは思いますが、今後も続けていきたいと思っています。(加藤)

A5. 今回の結果で少しでも岩手県にフェンシングをしたいと思ってくれる人達が増えればいいと思います。フェンシングは10人いれば10人違うプレーヤーがいて、それをどう攻略していくか、駆け引きを行うスポーツで、そこが面白さでもあります。フェンシングに興味をもってくれる人が増えると嬉しいです。(加藤)

A6. フェンシングはルールが少し難しいですが、とてもおもしろく格好いいスポーツなので少しでも興味を持っていただけたら嬉しいです!(小川)

## フェンシング競技(成年女子フルール) 千葉 朱夏 選手・小川 千尋 選手・加藤 怜 選手



成年女子フルールで準優勝した本県の(左から)小川千尋、千葉朱夏、加藤怜(岩手日報2022年10月4日付)

